

# なるほど経済指標

## 第3次産業活動指数

検索

発表機関: 経済産業省 (毎月中旬発表)

わが国では、産業部門においてサービス業など第3次産業の割合が高まる、いわゆる「経済のサービス化」が進展しています。そのため、わが国の景気動向を把握するうえで、これら第3次産業の活動をウォッチすることが重要と考えられます。そこで今回は、こうした第3次産業の活動を端的に把握できる「第3次産業活動指数」について解説します。

### 1. 第3次産業活動指数とは

第3次産業活動指数とは、卸・小売業やサービス業など、第3次産業に属する業種の活動状況を統一的な尺度で捉えることを目的として、各省庁が所管する第3次産業の活動に関する統計を総合し指数化しています。

わが国では、国内総生産に占める第3次産業の割合が6割超に達することから、注目すべき指標と言えます。加えて、当該月の指数が約1ヵ月半後に発表されるなど、速報性も確保されているため、政府の月例経済報告のなかでも、毎月の景気動向をみる指標として活用されています。さらに、業種別の指数なども公表されており、企業が自社に関係する業種の指数の動きをみることで、業界景気の動向を捉える手助けにもなると考えられます。

### 2. 最近の第3次産業指数の動き

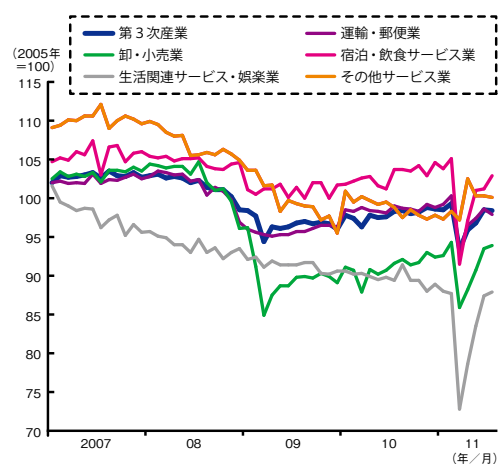
ここで、最近の第3次産業活動指数(季節調整値)の動きをみると(図表)、東日本大震災によって顕著な落ち込みを示しています。すなわち、震災直後の本年3月には前月比▲5.9%と、単月としては現行指数で比較可能な2003年以降で最大の低下幅を記録し、指数も93.4と、前回の「景気の谷(2009年3月:94.4)」の水準を下回りました。このことは、製造業の生産活動を示す「鉱工業生産指数」が、震災後にサプライチェーンの混乱に直面しながらも「景気の谷」の水準を下回らなかったのとは対照的な動きと言えます。

このような動きを辿った背景として、震災に伴う交通インフラの寸断で運輸・郵便業の活動が落

ち込んだほか、外食やレジャー需要の低迷で宿泊・飲食サービス業や生活関連サービス・娯楽業の活動が低迷したことなどが指摘できます。こうした点に鑑みれば、震災に伴うマイナスインパクトは、第3次産業にとってきわめて大きかったと判断できます。

図表

主要業種別みた第3次産業活動指数の推移(季節調整値)



(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」

### 3. 今後の注目ポイント

ただし、足元の指数は、震災前の2010年末～11年初に近い水準に持ち直しています。さらに本年度いっぱい、鉱工業生産の回復に連動して、事業所向けサービス業などの活動が活発化すると期待でき、総じて第3次産業活動指数は持ち直しの動きが続くと見込まれます。もっとも、内外景気の減速リスクが根強いもと、こうした動きがどこまで持続するかがポイントとなりましょう。

渡辺 洋介